

政治始

去る四日は政治始め、付午
前九時より伊藤首相を始め、黒田、山縣、
松方、西郷、大山、山田、森、榎本の諸大臣、
大木元老院議員、三島警視總監、高崎東京
府知事等何れも参朝し聖上に同十時頃
正廳へ出御あらせられ總理大臣は式に據
り神宮の事と奏し尋で各官衙の事を奏し
天裁了りて同十二時各々退散たる由
●井上宮中顧問官 には来月早々歐米
巡視として出發せらるゝの噂あり

●長谷川判事 宇都宮始審裁判所より
當地の同應へ轉任を命ぜられたる判事長
谷川保敏君に來る廿日頃來任せらるるべ
しと君は博く法學に涉獵し且書畫の如き
の專門の大家をして投筆せしむるほどの
老手なりと聞く

●神奈川縣會の中止 曩に本紙に掲
載せし如く同縣臨時縣會に於て非常なる
激論ありしが縣會は終に議案を審議せ
て中止せし處向縣知事は之れを認可せ
て更に去る四日を以て再議に付せしに
復た同日も前同様の議論沸騰し十四
名に對する廿三名の多數にて議長常置委
員等の提議を爲さるゝことに決したるが
縣知事は遂に其翌五日を以て縣會の中止
を命じたりとのこと

●警官又々高知に出張す 曩に其筋よ
り警部巡查五十餘名と高知に遣りしとは
前號に掲載せしが又々去る四日午前八時
十五分新橋發の汽車にて警部六名巡查五
十名と高知に派遣せしめたりと聞く

●上毛俱樂部 東群馬勢多郡警察署
にて二日前同部員關農夫雄氏を召喚
し同部所定の規約に關する詳細なる説明
書を差出すべき旨嚴達せられたる由
●新町の新年宴會 綠野郡の有志諸氏
は一昨五日を以て新町驛の綠野明已俱樂部
部に新年宴會を開けり

新年宴會と政談演說會

●新田郡の有志諸氏には去る四日太田町大野樓に新年
宴會と張り席上同郡俱樂部創立員を互撰
したるに金井貢、富澤恒次郎、葉住榮三
郎、柏川守平、津久井鎌吉乃諸氏當選し
不日石創立員諸氏より其筋へ届出づるこ
とに決し夫れより一同献酬の間に時事を
談じて解散したりと又同町の有志者には
近日政談演說會を催はさんと昨今専ら計
畫中なりと聞けり

●桐生町の政談演說 前號に記したる
如く桐生町にては去る四日午後一時より
同町千年亭に於て政談演說會を開設し澤
田、安住、桑原及び多賀の諸氏各一題を
演說し午後五時頃散會せしが傍聴人は無
慮三百餘名群集し中々に盛會なりと警
官の能く手の届くと同町愛國同志社員
の奮發熱心は眞個に好一對なりしと

●青森縣の建白書 青森縣々會議員其
他の有志者が一致協議せる條約改正事件
の建白は其後委員の取調も済み建白書も
脱稿されたり一同調印の上縣廳へ差出し
去月廿四日縣知事の與書を得て縣廳より
直ち元老院へ向け廻送しける由

●新年の糸況 横濱生糸商況は稍や小
緩みの工合を以て越年一遂に器械及坐繰
糸一萬九千四百九十八個提糸三千八百十
六個掛田糸二千七百七十九個與仙濱付糸三
百二十三個雜糸九十七個合計二萬五千八
百十三個と本年へ繰越したる程なれば餘
り面白しといふの商況はあらざれども
新年二日及び去三日の市況は可なり乃景
況にて去二日の初商内は掛田糸凡二百
個黒糸系及折返糸等も去年末同様の價を
以て百四五十個の手合あり其中信州糸六
十七個は六百四十五弗の相場にて手合出
來たり是よりは年も改りたるとなれば
市況も今一入活潑と現はすべしと

新田養蠶改良社

●新田郡尾嶋村なる
金井貢氏は夙に養蠶改良に着眼し客年五
月の頃より養蠶改良社設立の計畫は從
事し百方奔走、賛助者も募り去に既に二
百餘名の賛成者と六百餘圓の寄附金とを
得たれば去る九月中同地下町に地をとし
建築工事に着手し既に竣工たるを以て
規則を編みし其筋へ出願する由同郡元
來上毛屈指の土地柄なるにも拘へらず昨
年の如き他郡又は他縣より五十餘名教
授員を聘し二千餘圓の給料を仕拂たる由
なるが同社の目的は専ら養蠶教師と養成
し博く蠶業諸般の改良を企圖す社業の隆
盛に連れ本町、村田及び太田町等に支社
を設け且同郡を五區に分ち毎年一月毎區
へ有名の養蠶現業者と聘し實地の談話と
聽聞する計畫にて愈々開社の上は同郡の
蠶業上顧に面目を一變するに至るべしと
同地よりの通信の儘

●前橋勸工場 去る四日に愛たく開場
したる堅町の勸工場(種々な商店が駢ん
で居て至極買物に便利なる處なり)ハ當日
市日だけに縦覧人ればたゞ各店の賣
場金の總額は幾んど五百圓に近かりしと
又た開場の好景氣を見て俄に店を申込
みしもの十數名及びしがモハヤ満店に
つき謝絶たるよと何にしも爾後日々賑
はる様は東京銀座の繁榮一部と前橋に
移したる心ちぞせらる

●ハンケチーフ 昨年中我國より米國
に輸出せし絹製ハンケチーフの非常
に増加したるとはまづ一記載せしが米
國より刊行する絹業雜誌を見るに昨年中
日本より米國へ輸入せし日本製ハンケチ
ーフは著るしく増加し同年四月より十月
に至る七ヶ月間の輸入價額は二十九萬六
千三百五十弗二十九仙に上り前年未曾有
の輸入なりと云へり

上毛青年會

●一昨五日に片原の住
吉屋にて開かれし上毛青年大會は誕生日
といひ新年の事なれば各地の會員數多く
集會するならんと豫想せしに案に相違し
例會よりは地方より來會するもの多きなる
に今會は之れを反して一人も出席するも
のなきは保安條例發布の結果ならん乎と
れど當地の青年諸氏ハ三眺に學友會の
懇親會のあるにも拘へらず來會する者四
十餘名先づ幹事石島長三郎氏ハ半期分の
精算報告となし次に幹事と選舉せしに再
選にて高津、石島、田中の三氏其任に當り
各自承諾し次に高津伸二郎氏ハ本會員た
らんとする者は二名以上會員の紹介を要
するととなしたき旨を建議されしに滿場
の賛成にて可決し次に關農夫雄氏は本會
の議事規則を設けると建議されしに是
れまた滿場の賛成にて可決し來會まで
起草する事とし起草委員三名と投票せし
に關農夫雄、鈴木藤太郎、石島長三郎の三
氏が當選され其より佐藤左郎、音羽武逸、
武田信、渡瀬昌雄、永山佛太郎、澤田義武、
篠田昌武、笹沼増吉、高橋重、石島長三
郎、鈴木藤太郎、關農夫雄等諸氏の本會の
誕生を祝し且つ將來の育兒法を講ずる演
說ありて實に盛況なりしと

●火防具新調 山田郡臺ノ郷聯合戸長
澁澤熊吉、管區巡查某乃兩氏には部内各
村に火防器具の備へなきを患ひ人民總代
等へ度々協議を盡せし未漸く此程に至り
孰れも相應の消防器械を新調したるを以
て近日聯合大演習と執行する都合れ由
●松本の大火 信州松本南深志町の極
樂寺より去る四日の午後十時三十分に出
火し同町にて一千二百戸北深志町にて三
百五十戸其他郵便局、警察署、尋常中學
校、電信柱二十本焼失したりと極樂寺火
を失ちて松本の市民地獄に墮落す新年初
初しく悼まきとかな

●高崎の初荷 高崎停車場前の鐵道荷
物取扱ひ通運會社(三興社、大友會社、明
石屋組、中牛馬會社、三星社)の諸會社にて
は一月二日の午前三時比より荷物の入荷
車と花々しく飾り立て人足に揃ひの手拭
印半纏を着せきやう聲いささしく市中の
店々へ初荷を送りし狀ハ實に中仙道中の
繁華地たるに背かずとて旅人も驚きたり
とぞ又市中の店々より他の取引店へ送
る荷物の數々ハ瑣瑣の手函にあらなくは
就れど商業も盛さじ腕を物品の上で輝か
し小車の轆ひささく切らるる是目ハ片岡郡な
る清水の觀音へ養蠶蠶熟の擁護と仰が
んとて歩運べる人々も夥多しく聖石川原
乃架橋は動くばかり難否なりしに高崎
市中を通行の際は此の初荷車に行きあひ
人は車を避ぐるに道なく車は人を避けか
ねて頗る混雜を極めし先づ間違もなか
りしと愛たき

●鐵道礦泉場新年の景況 鐵道礦泉場
ハ舊臘より浴客俄かに増加去年越と兼ね
入浴するもの多く一日二日兩日の如きは
何れの旅館も殊の外の難否にて新年の景
氣を呈はしたり去る一日内務大臣山形伯
には上野發最終列車にて同地に來りて井
上伯の別邸へ宿泊され其翌二日第三列車
みて歸京せられたり右に付本縣よりは知
事を始め十數名出張され警察署よりは數
多の巡查と派出せしめ同大臣の館は勿
論礦泉場中警備最と嚴重なりと目下滯
浴中なる重なる人々を配せば其高館には
野村謙吉、高家龍利亭、園基家林仙二氏山
城軒には明治女學校校長木村熊二君、選信
乃屬莊原和君其他各旅館滯浴の人多し又
去る二日ハ山城軒に於て鐵道、原市、近傍
の有志諸氏數十名にて新年宴會を開き中
々の盛況にて近年よなき一月の模様と見
受けしと同地よりの初通信